

◎ バイオディーゼル燃料取組実態等調査の結果概要 (平成26度実績)

* 調査対象事業体

- ・バイオディーゼル燃料原料の回収・購入、バイオディーゼル燃料の製造、利用に取り組んでいる全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会会員及び会員の傘下団体
- ・バイオディーゼル燃料施策・事業に取り組んでいる市区町村
- ・その他バイオディーゼルに取り組んでいる事業者等

* 調査対象期間

- ・平成26年4月1日～平成27年3月31日における実績
(調査時期:平成27年8月～11月)

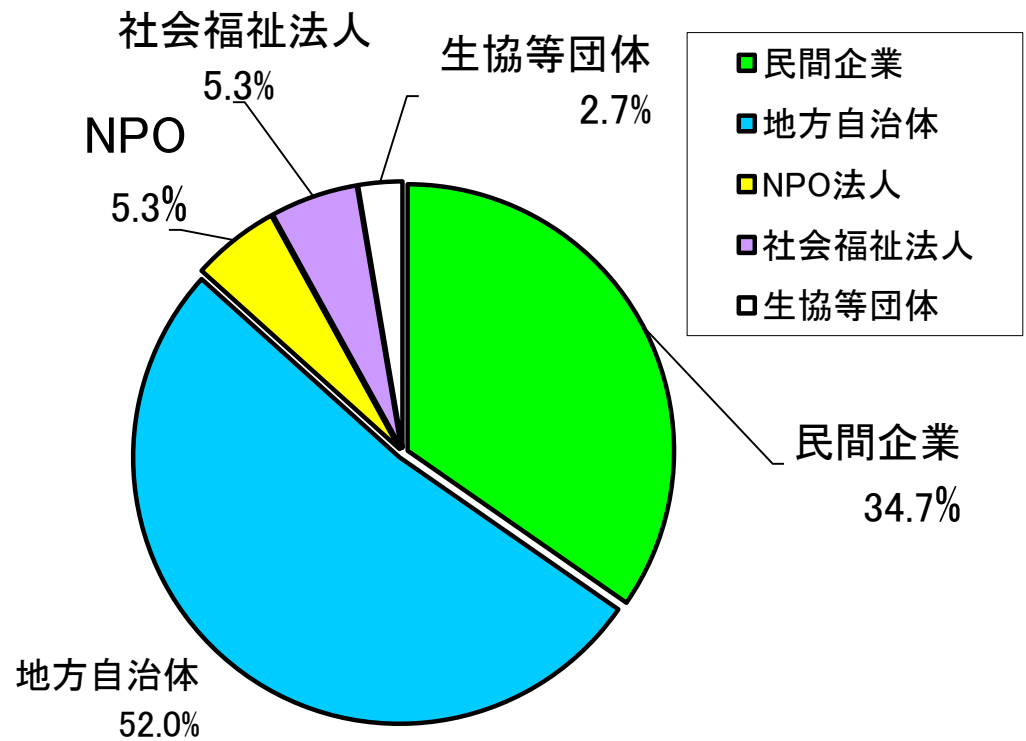
* 調査実施者

- ・全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会

バイオディーゼル燃料の取組主体の組織

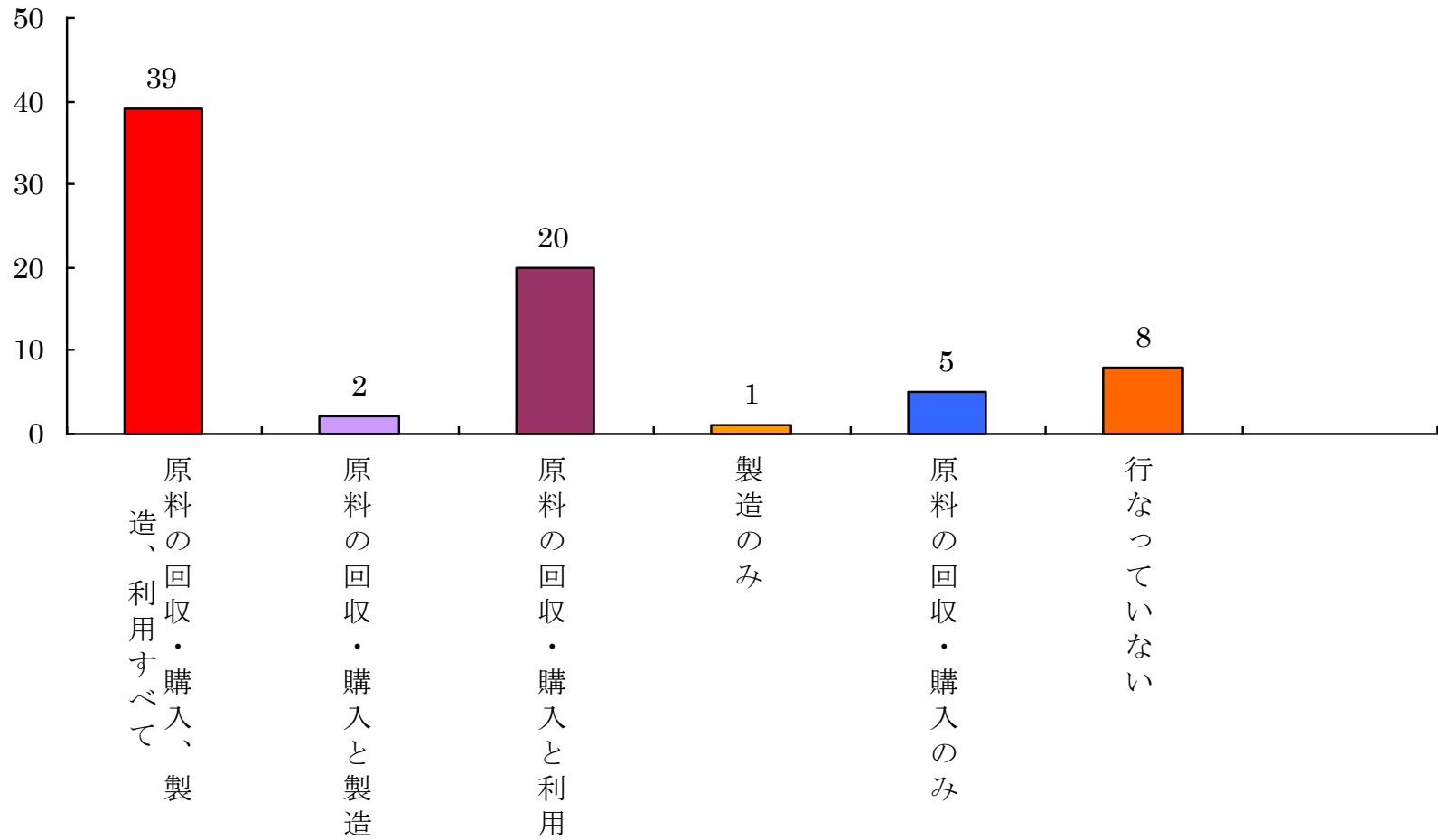
75事業者から回答があった。

組織	事業者数	割合(%)
①NPO法人	4	5.3
②民間企業	26	34.7
③地方自治体	39	52.0
④社会福祉法人	4	5.3
⑤生協等団体	2	2.7
合計	75	100.0



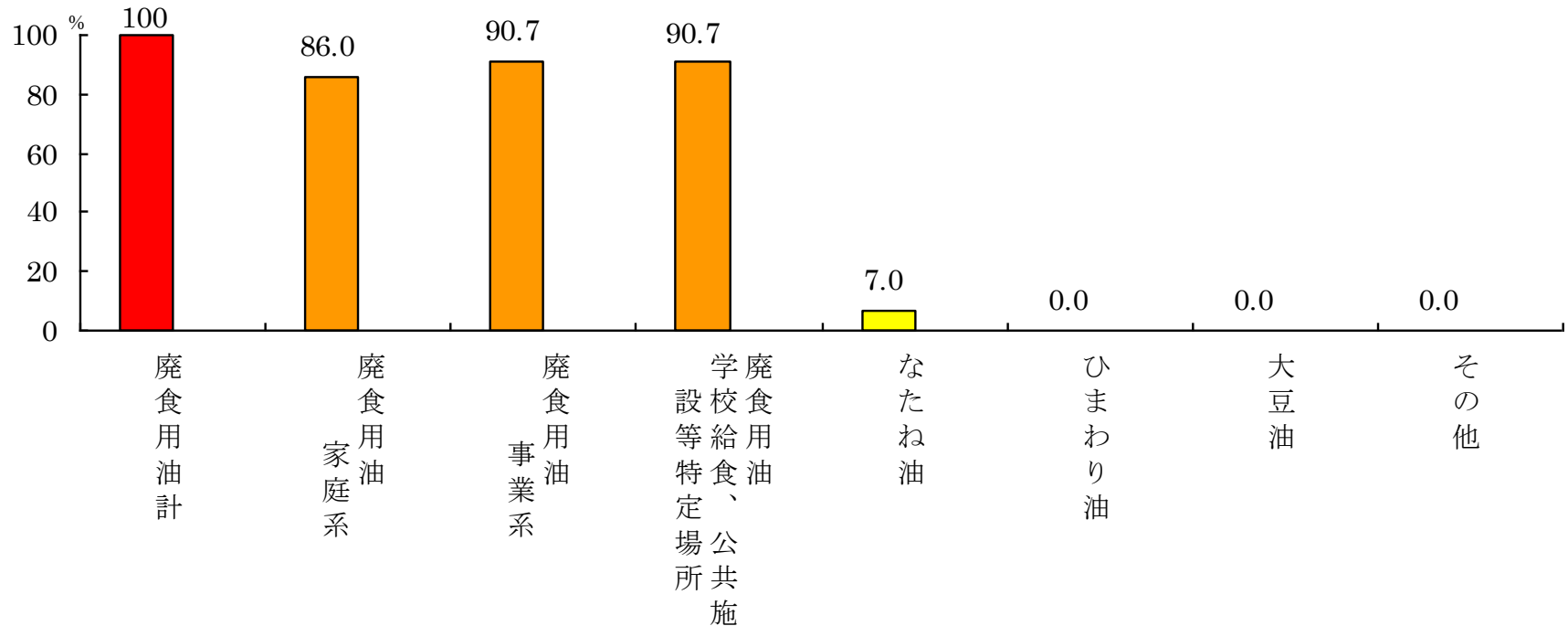
取組形態

(事業者数)



バイオディーゼル燃料原料の種類

燃料製造者(43事業者)の全てが「廃食用油」を利用している。
前年度から原料調達先に大きな変動はみられないが、事業系や公共施設等のそれぞれからの採用率が上がっている。



製造量と製造コスト

①年間製造量：14,884kℓ(該当事業者43/平均346kℓ)

・数千kℓ規模の事業者回答が加算されたため、増加した

②製造率：93.4%(回答事業者40の相加平均)

・投入原料から製造したバイオディーゼル燃料数量の割合

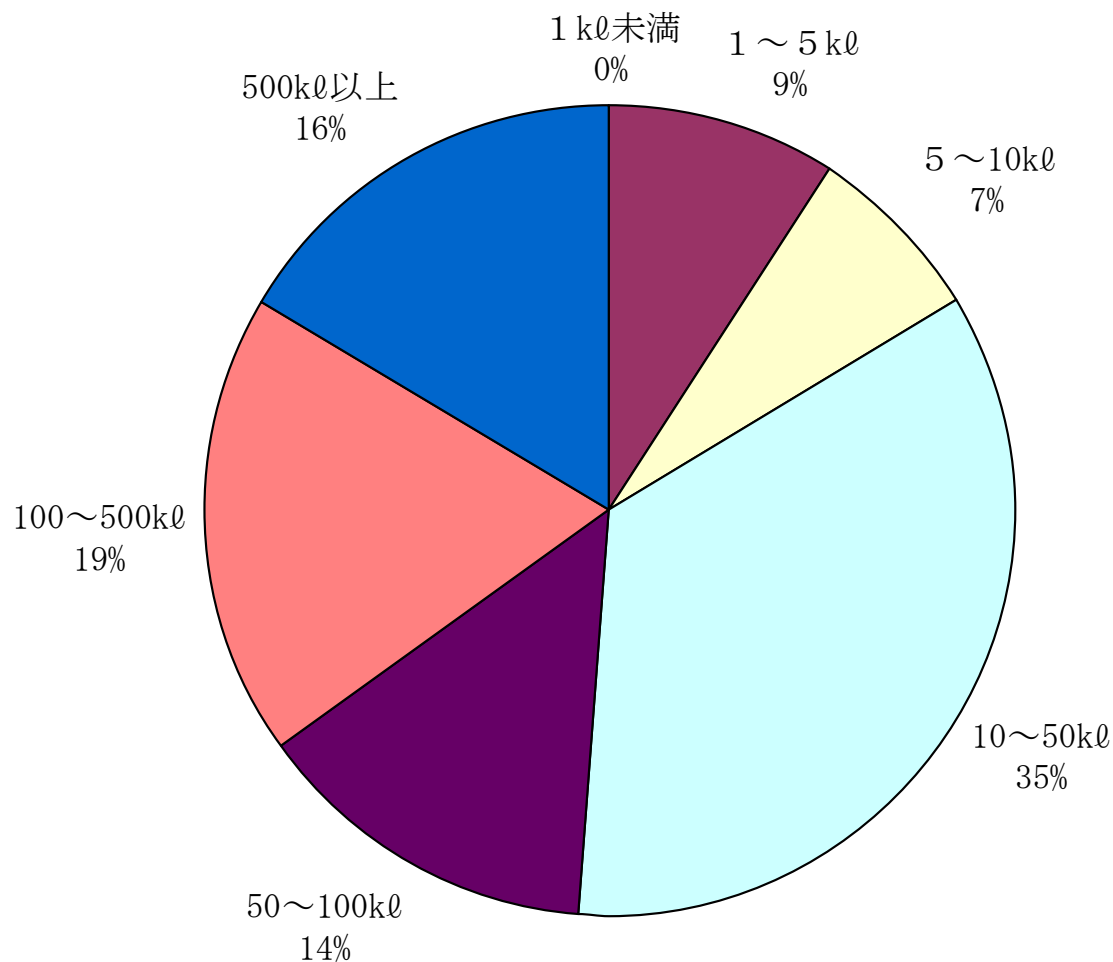
③製造コスト：102.6円/ℓ(回答事業者35の相加平均)

・回答のうち幾らか高額な事象(人件費や減価償却等の高額を含んだ回答)があったが、本年度は極端な突出を認めないため協議会としては推定(概算水準)価格は算出しない。

*なお、事業者の燃料製造稼働日数は、平均158日であった。

バイオディーゼル燃料製造量の規模(年間)

1事業者あたりの製造量の規模としては、年間10～50kℓが多い。



車両等の種類別利用割合

◎ 60事業者から利用していると回答があった。

・依然、トラックやごみ収集車利用が多いが、車両以外の「発電機」や「建設現場」を含む「重機」（含：フォークリフト）の利用が定着してきた。

また、軽油混合（B5、B20）利用の回答用途には「*」印を入れたが、台数は正確に把握できる回答が得られず、今回の台数はB100利用のみを集計している。

用途	ごみ収集車	バス	スクールバス	公用車	トラック	乗用車	農林機械等	建設現場	発電機	熱源	その他(特殊自動車等)
台数	413 *	42 *	2 *	33 *	513 *	23 *	20 *	42 *	14	11 *	不明 *
事業者数	32	21	6	20	38	13	9	13	11	11	30

協議会活動に対する要望(全回答事業者75/69者から複数回答)

- ・軽油引取税の見直し
- ・車両以外の用途拡大の指針
- ・バイオディーゼル燃料に関する情報提供

などを挙げる事業者が多く、特に燃料製造者から「車両以外の用途拡大の指針」の声が多く見られた。

